

教育研究業績書

2018年11月21日

所属：幼児教育学科

資格：講師

氏名：小尾 麻希子

研究分野	研究内容のキーワード
幼児教育学, 保育学	幼児教育カリキュラム, 幼稚園教育実践史, 保育実践研究, 保育内容指導法, 保育者養成教育
学位	最終学歴
修士 (学術)	神戸大学大学院総合人間科学研究科人間発達科学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

1 教育方法の実践例		
1. 総合的な遊びの構想から模擬保育の実施及びその実践の振り返りに至るまでの連続的な学習過程の構築	2017年09月～現在	学生の保育構想力や実践力の向上へとつながる取組の一環として、具体的なテーマに基づいた総合的な遊びの構想から、教材研究・教材作成・指導計画作成、模擬保育の実施、実践の振り返りに至るまでの連続的な学習過程を構築。当該授業における研究・実践の成果は、後掲の学会研究大会において口頭発表している。（「幼児教育実践演習」）
2. 現職保育者の思考技術を援用した学習過程の構築	2017年04月～現在	保育実践の場で行われている保育構想過程・指導計画作成過程など、現職保育者の思考技術を援用した学習過程の構築とそこでの指導方法について研究、実践化を図っている。この方法を援用した授業の成果は、後掲の学会誌や学会研究大会において発表している（授業全般）。
3. フィールドにおける調査結果を研究資料としてまとめる学習過程の構築と研究協力園へのフィードバック	2016年04月～現在	市内の公立・私立幼稚園における継続的な保育観察を通して、特に、幼児同士の育ち合い及びその過程に働きかける教師の役割について重点的に学ぶ機会を設けている。観察記録に基づいて討議した後、研究資料や後掲の「研究集録」としてまとめる学習過程を位置づけている。研究成果は、武庫川女子大学教育研究会研究発表会にて発表。さらに、観察園の園長・教員へフィードバックし、助言を得て、次年度の卒業研究へとつなげている（「教育演習」）。
4. 課題探究型・体験型学習（アクティブ・ラーニング）を活用した知識の構築	2015年04月～現在	実践事例や実践映像から、幼稚園等において生活する子どもの姿や遊び、人間関係などの実際を捉え、各時期の発達の特徴やその発達に添う保育者の働きかけについて理解を深めるようにしている。授業の終盤には、具体的なテーマに基づいた教材研究や教材・指導計画の作成などを位置づけて、環境のつくり方、援助方法、保育展開について理解を深めるようにしている。また、グループ学習による調査・資料作成・発表・討議などを位置づけて、保育実践に対する学びを深める工夫を行っている（「保育内容総論」）。
5. フィールドにおける観察調査からの学習	2014年04月～現在	学生自身で子どもの活動する姿を観察し、記録をとることから、幼児理解や保育者による援助方法について学びを深めることができるようにしている。また、計画から実践に至るまでの一連の保育実践に参画し、保育方法や教材研究についての理解を深められるよう、保育実践現場をフィールドとして授業を展開している（「教育演習」「卒業研究」）。
6. 実践映像・写真・パワーポイントなどによる視聴覚教材の活用	2014年04月～現在	教員自らが作成した資料や、実践映像、写真を活用して、実際の保育における幼児の姿や環境、保育者の働きかけなどについて具体的にイメージしながら学びを深めていくようにしている（授業全般）。

2 作成した教科書、教材		
1. 演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点ー平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠ー	2018年03月	平成29年3月告示「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、幼稚園教育の基本、幼稚園教育における資質・能力の考え方、領域の考え方など、改訂の要点を分かりやすく解説した文献である。各章に演習内容を示し、アクティブ・ラーニングを生み出す教科書として活用できるよう構成した。（単著：全54頁・一藝社）
2. 研究集録（平成29年度）『継続的幼稚園観察に基づいた保育実践研究の試み(2)ー保育実践「にんじゃのもりであそぼう」における学びの過程と保育者の役割ー』	2018年02月	平成29年度「教育演習」における研究の成果を、「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生と共にまとめた研究集録である。市立幼稚園における継続的な保育観察を通して、6か月間に及んで深められてきた保育実践「にんじゃのもりであそぼう」にみる幼児の学びの過程と保育者の役割について明らかにした。授業や教育演習、幼稚園教育実習指導等において活用している。
3. 幼児教育指導計画集	2017年08月	平成29年度「学級担任論」（幼）の授業において、受講学生が構想・作成した指導計画を収録したものである。幼児一人一人のイメージを協同的な遊びへと深める保育構想と具体的な環境の構成、教師の援助的役割等、本授業における学びの成果を表した指導計画集である。授業や幼稚園教育実習指導等において活用している。
4. 研究集録（平成28年度）『継続的幼稚園観察から	2017年02月	平成28年度「教育演習」における研究の成果を、「教育

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』		演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生と共にまとめた研究集録である。市立幼稚園における継続的な保育観察を通して、幼児同士の「協同的な学び」を育む保育の過程を明らかにした。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」として提示した。授業や教育演習、幼稚園教育実習指導等において活用している。
5. 保育実践事例集	2016年04月	後掲の「5歳児保育実践事例集」に加筆し、まとめ直した幼稚園における実践記録集である。授業や幼稚園教育実習指導において活用している。
6. 兵庫教育大学教材文化資料館「3歳児保育指導案」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園3歳児学級担任時に作成・実践した指導案2編を兵庫教育大学教材文化資料館にて所蔵・公開している。
7. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2007年03月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。3歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例各1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。（兵庫教育大学附属幼稚園）
8. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2006年03月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児か5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。（兵庫教育大学附属幼稚園）
9. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」	2005年03月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著した。5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。園内研究はもとより、附属幼稚園教員による授業及び実地教育指導においても活用した。（兵庫教育大学附属幼稚園）

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 府立高等学校進路ガイダンスにおける講話	2017年06月	大阪府立高等学校1年生を対象とした進路ガイダンスの講師を務めた。幼稚園教員としての経験に基づいて、幼稚園教諭及び保育士の職務内容や専門性等について講話した。
2. 地域連携活動「図書館との連携によるおはなし会」	2017年04月～現在	教育演習及び卒業研究に所属する学生有志による「おはなし会」を開催（毎月1回）。絵本の読み聞かせや学生による手作り教材を用いたお話し会などを通して、子どもの遊び・学びの場づくりに寄与することを目的とした取組である。
3. 武庫川女子大学附属幼稚園との連携活動	2017年04月～現在	武庫川女子大学附属幼稚園オープンデーにおける有志学生によるペープサートの上演や保育補助など、保育・教育活動に参画する形で、附属幼稚園との連携を図っている。また、学生自身の実践力向上へとつながる活動として、学生への助言・支援にも努めている。
4. 高大連携授業	2016年09月	高大連携の一環として、武庫川女子大学附属高校3年生ELコース45名の生徒を対象とした授業を2回にわたって実施。保育実践事例や映像を提示しつつ、幼児期の遊びの特徴とその遊びが幼児の育ちにどのような影響を与えるのかについて講話した。
5. 地域連携活動「図書館との連携によるワークショップ」	2015年04月～現在	教育演習及び卒業研究に所属する学生によるワークショップを開催（年に2回）。手作り教材を用いたお話し会や造形遊びなどを通して、子どもの遊び・学びの場づくりに寄与することを目的とした取組である。
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 幼稚園教諭専修免許状		
2. 小学校教諭専修免許状		
3. 保育士資格		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 神戸市内私立幼保連携型認定こども園との共同研究「乳幼児期の発達にふさわしい保育環境及び教師の援助について考える」	2017年12月～現在	神戸市内私立幼保連携型認定こども園において、研究保育の実施や実践記録に基づいた研究会を開催し、保育環境や教師の援助等に関する研究を共同にて進めている。
2. 武庫川女子大学附属幼稚園教員との共同研究「幼稚園教育課程研究」	2017年04月～現在	武庫川女子大学附属幼稚園の教員との連携・共同により、「幼稚園教育要領」改訂の趣旨を踏まえた教育課程、指導計画、カリキュラム・マネジメントに関する研修・研究を積み重ねている。平成29年3月告示「幼稚園教育要

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
3. 文部科学省指定研究開発「幼稚園における親育てプログラムとその評価システムに関する研究開発」	2006年04月～2007年03月	<p>領」に対応した教育課程・指導計画を共同にて作成。平成30年度の全面実施に向けて見直しを図り、後掲の武庫川女子大学研究紀要第1集「平成30年度 教育課程・指導計画」として刊行した。</p> <p>文部科学省研究開発指定校として、幼稚園における「親育てプログラム」及びその「評価システム」を開発し、実践化させた。保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談等から、同プログラムを構成。その評価システムとして、保護者の子育て意識の変容を捉える指標を作成。研究の成果は、後掲の「文部科学省研究開発実施報告書」としてまとめ、文部科学省へ提出した。（兵庫教育大学附属幼稚園）</p>		
4. 文部科学省海外派遣「国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修（派遣先：フィンランド・スウェーデン）」	2005年11月	<p>文部科学省海外派遣研修において、フィンランド・スウェーデンの就学前教育や初・中・高等教育・特別支援教育の実情を視察し、後掲の報告書としてまとめ、文部科学省へ提出した。</p>		
5. 文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究発表	2004年11月	<p>平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会において、兵庫県代表として研究発表を行った。協議主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりする物的・空間的環境の構成」について発表。発表の要旨は、後掲の「教育課程協議会研究成果の要旨集」に記載している。</p>		
6. 大学教員・幼稚園教員・保育士・小学校教員との共同による実践的研究・研修「幼年教育研究」	2004年04月～2007年03月	<p>兵庫教育大学附属幼稚園「幼年教育研究会」（年3回開催）において、公開保育及び研究発表を行った。保育実践の質的向上及び小学校教育との接続に関する研究を目的とし、兵庫教育大学教員や同附属幼稚園・附属小学校教員、兵庫県下の幼稚園教員・保育士と共に、実践に基づく研究・研修を積み重ねた。研究成果は、後掲の研究紀要等において発表した。</p>		
4 その他				
1. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2019年01月	<p>主催：川西市教育委員会 川西市立幼稚園長会 研究保育参観及び指導助言（於：川西市立北幼稚園）</p>		
2. 川西市立幼稚園園内研究会講師	2018年12月	<p>主催：川西市立川西北幼稚園 研究保育参観及び指導助言</p>		
3. 川西市立幼稚園園内研究会講師	2018年11月	<p>主催：川西市立川西北幼稚園 研究保育参観及び指導助言</p>		
4. 三重県四日市市立幼稚園幼児教育研究会北部ブロック研修会講師	2018年10月	<p>主催：四日市市立幼稚園長会 四日市市立幼稚園幼児教育研究会 講話：「幼児教育における主体的・対話的で深い学びとは－保育の原点に立ち返って考える－」</p>		
5. 三田市立幼稚園園内研究会講師	2018年10月	<p>主催：三田市立松が丘幼稚園 研究保育参観及び指導助言</p>		
6. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年08月	<p>主催：川西市教育委員会 川西市立幼稚園長会 指導助言：研究主題に基づく園内研究と実践化への具体的方策</p>		
7. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年07月	<p>主催：川西市教育委員会 川西市立幼稚園長会 指導助言：研究主題の設定と研究の進め方について 講話：「子どもの育ちと学びの過程を可視化させる実践・研究へのアプローチ」</p>		
8. 川西市立幼稚園教育研究会講師	2018年度～現在	<p>主催：川西市教育委員会 川西市立幼稚園長会 新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた実践や研究の進め方について指導助言を行っている。</p>		
9. 幼保連携型認定こども園園内研究会講師	2017年12月～現在	<p>神戸市内私立幼保連携型認定こども園において、研究保育参観後、保育内容や保育環境、園内研究の進め方等について指導助言を行っている（年間6～7回）。</p>		
10. 平成29年度関西幼稚園・こども園連合会教育研究大会（奈良大会）講師	2017年11月18日	<p>主催：関西幼稚園・こども園連合会教育研究会 研究発表全体会指導助言（於：やまと郡山城ホール）</p>		
11. 武庫川女子大学附属幼稚園園内研究会講師	2017年04月～現在	<p>主催：武庫川女子大学附属幼稚園 附属幼稚園教員との連携を図りつつ、新幼稚園教育要領に対応した教育課程の編成や保育内容・保育方法に関する研究・研修を共に進めている（年間3～4回開催）。</p>		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 新版「保育用語辞典」	共	2019年03月	一藝社	<p>担当箇所は「言葉（領域）」の項目である。「幼稚園教育要領」に示されている言葉の獲得に関する領域について解説した。</p> <p>編集委員代表：谷田貝公昭 共著者多数のため記載不可能 （「言葉（領域）」の項目144頁執筆）</p>
2. 新版「教育・保育課程論」（平成29年3月告示「幼稚園教育要領」）	共	2018年03月	一藝社	<p>2017年3月発行コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」の新版。平成29年3月告示「幼稚園</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
等準拠)				教育要領」等に基づいて改訂したものである。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：大沢裕、高橋弥生、小尾麻希子他12名 (全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆)
3. 新版「保育者論」(平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠)	共	2018年03月	一藝社	2016年3月発行コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」の新版。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等に基づいて改訂したものである。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：谷田貝公昭 執筆者：谷田貝公昭、新山裕之、小尾麻希子他12名 (全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆)
4. 新版「保育内容総論」(平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等準拠)	共	2018年03月	一藝社	2017年2月発行コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」の新版。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」等に基づいて改訂したものである。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：大沢裕、高橋弥生、小尾麻希子他12名 (全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆)
5. 演習形式でわかりやすく学ぶ「幼稚園教育要領」の要点—平成29年3月告示「幼稚園教育要領」準拠—(再掲)	単	2018年03月	一藝社	平成29年3月告示「幼稚園教育要領」改訂の基本方針と改訂の背景、幼稚園教育の基本、幼稚園教育における資質・能力の考え方、領域の考え方など、改訂の要点を分かりやすく解説した。各章に演習内容を示し、アクティブ・ラーニングを生み出す教科書として活用できるよう構成した。(全54頁)
6. 現代保育論	共	2017年11月	一藝社	現代保育内容研究シリーズ1。保育実践における現代的ニーズと課題、保育者の専門性、保育教材、保育内容指導方法など、実践的知見から論じた保育専門書である。第5章「実践の場で活用できる保育教材研究」を執筆。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」において示されている教材の意味、保育内容「環境」のねらい及び内容に焦点を当てた保育教材、その保育教材を活用した協同的な遊びと学びについて、具体的事例を提示しつつ論じた。 編者：現代保育問題研究会 著者：大賀恵子、大倉真壽美、小尾麻希子、杉山喜美恵他8名(全144頁 第6章「実践の場で活用できる保育教材研究」62-71頁執筆)
7. 「保育内容総論」(初版第2刷)	共	2017年09月	一藝社	2017年2月発行コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」初版の第2刷(谷田貝公昭・石橋哲成監修・一藝社)
8. コンパクト版保育者養成シリーズ「教育・保育課程論」	共	2017年03月	一藝社	幼稚園・保育所・児童福祉施設における教育課程・保育課程・指導計画の意義・作成方法・作成するにあたっての留意点などについて論じた文献である。第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」を執筆。「幼稚園教育要領」と教育課程の関係性、指導計画の意義、指導計画の実際と作成上の留意点に焦点を当て論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：大沢裕、高橋弥生、小尾麻希子他12名 (全146頁 第5章「幼稚園における教育課程と指導計画」45-53頁執筆)
9. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育内容総論」	共	2017年02月	一藝社	幼稚園・保育所における保育内容の歴史、保育内容を考える視点とその評価、乳幼児の発達に応じた保育内容など、保育内容全般について解説した文献である。第13章「5歳児の保育内容」を執筆。5歳児の生活と保育内容との関係性、運動的側面・言葉及び思考力の芽生え・人間関係発達の側面と保育内容との関係性に焦点を当て、5歳児にとってふさわしい保育内容について、実践事例を提示しながら論じた。 監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：大沢裕、高橋弥生 執筆者：大沢裕、高橋弥生、小尾麻希子他12名 (全146頁 第13章「5歳児の保育内容」117-125頁執筆)
10. コンパクト版保育者養成シリーズ「保育者論」	共	2016年03月	一藝社	保育者の制度的な位置づけ、倫理感、役割と専門性、協働と専門職的成長について述べた文献である。第10章「現代における望ましい保育者像」を執筆。筆者によるアンケート調査結果より、経験年数・立場によって相違する「望ましい保育者像」及び保育者の専門職的成長プロセスについて論じた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
11. 教育学科への招待	共	2015年04月	武庫川女子大学出版部	監修：谷田貝公昭・石橋哲成 編著者：谷田貝公昭 執筆：谷田貝公昭、新山裕之、小尾麻希子他12名 (全155頁 第10章「現代における望ましい保育者像」94-102頁執筆) PART II 保育・幼児教育・社会福祉・特別支援、01「幼児教育の原点」を執筆した。日本において最初に設立された東京女子師範学校附属幼稚園の創立から昭和初期にかけての保育と、主事を務めた倉橋惣三の保育論を取り上げ、現代の幼児教育・保育の幼児教育の原点となった実践と理論について解説した。 監修：武庫川女子大学文学部教育学科 (44-47頁「幼児教育の原点」を執筆)
12. MINERVA保育実践講座第16巻「子育て支援の理論と実践」	共	2013年01月	ミネルヴァ書房	子育て支援の理念及び目的、歴史文化的諸相、幼稚園、保育所、子育て支援センター、地域における子育て支援の取り組みと実践例、子育て支援の効果及び課題、子育て支援の展望について著した文献である。第3章第1節幼稚園における「子育て支援」の概要を執筆。幼稚園における子育て支援の目的・方法・具体的事例について述べた。 編者：子育て支援プロジェクト研究会 執筆：名須川知子、高橋一枝、小尾麻希子他11名 (全176頁 第3章第1節 幼稚園における「子育て支援」の概要29-33頁執筆)
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 保育における施設設備のもつ可能性を切り拓いた「全国モデル幼稚園協議会」会員校の研究活動とその実践－1953年から1954年にかけての研究資料の検討－	単	2019年03月 刊行予定	『教育学研究紀要』第6 4巻 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けた「全国モデル幼稚園協議会」会員校における研究活動及びその実践の特徴について、1953年から1954年にかけて作成された会員校の研究資料に基づいて検討した。その研究の特徴として挙げられたのは、(1)保育室のコーナーを活用したごっこ遊びの場についての研究、(2)保育室と廊下、廊下とテラスの間を開放したオープンスペースとそこで創造される幼児の遊びに関する研究の2つの側面であった。実践化にあたっては、まず、机が配置された従来の保育室から、幼児自らが物的環境を構成し、幼児同士で豊かな遊びを創造していくような「場」へと保育室を変容させた。幼児自らが環境の構成者となり、そこで繰り広げられる創造的な遊びに価値を置いた実践へと移り変わっていく軌跡が明らかとなった。
2. 学校教育法制定後の千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の試み (査読付論文)	単	2018年12月	『保育学研究』第56巻3 号 58-69頁 日本保育学会	学校教育法制定後の1947年に構想・実践化されるに至った千葉師範学校附属幼稚園における「新保育」の特質を、その当時に作成された実践資料に基づいて明らかにした。本研究の意義は次の3点にある。(1)これまでの研究では解明されてはこなかった、学校教育法制定後に見られた保育実践の特質を現存資料に基づいて明らかにした、(2)学校教育法の幼稚園の目規定に示された「適当な環境」の趣旨について、当時の保育者がいかに受け止めたのか、同園の研究・実践資料に基づいて解明した、(3)「誘導保育」の継承と発展という特質をもつ同園の「新保育」を事例として、戦前の実践からの継承・転換という連続的な視座から、先行研究で述べられてきた戦後日本の保育実践の特質について再考の余地があることを指摘した。
3. 保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法－教育学科3年生の授業実践－	単	2018年08月	『関西教育学会年報』 第42号 151-155頁 関西教育学会	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、指導計画作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性について予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に依るという側面から、環境構成(教材を含む)や援助について考究する学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点が挙げられた。
4. 戦後教育改革期における「全国モデル幼稚園協議会」の結成と初期の活動	単	2018年03月	『教育学研究紀要』第6 3巻 37-42頁 中国四国教育学会	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けた「全国モデル幼稚園協議会」結成の背景及びその結成当初の活動について明らかにしていくことを目的とした。同協議会における活動は、会員校だけでなく、幼稚園とその設置者、文部省とが一体となって進めていたものであった。会員校における結成当初の研究活動には、(1)幼児の生活する「場」として、施設・設備のありようを検討していこうとするもの、(2)施設・設備のみならず、保育備品、保育用具類、材料、動植物の飼育・栽培に至って研究されたも

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5. 戦後の徳島大学徳島師範学校附属幼稚園における「幼児の生活プラン」(1949)の特質 (査読付論文)	単	2017年11月	『教育学研究ジャーナル』第21号 33-41頁 中国四国教育学会	のがあり、幼児の豊かな生活経験が生み出される「環境」という視座から施設・設備の可能性を検討しつつ保育内容の充実を図っていくとする研究の萌芽が明らかとなった。
6. 協同的な学びを育む保育の創造－伝え合いを支える教師の援助と環境構成－	共	2013年06月	『日本生活科・総合的学習教育学会第22回全国大会紀要』93-115頁 日本生活科・総合的学習教育学会	小学校以降の学校段階におけるカリキュラムの考え方を適用した幼稚園カリキュラムの創出とその拡大という、「保育要領」刊行後の動向が指摘されるなか、本研究では、「保育要領」刊行翌年の1949年に、徳島大学徳島師範学校附属幼稚園より出版された「幼児の生活プラン」を、当時に作成された資料に基づいて検討した。同プランは、「保育要領」の根本精神とも合致する「合自然性」の教育観を底流とし、また、同要領に表された指導観を「環境による教育」の趣旨において明らかにした保育の計画であった。幼稚園教育独自の立場から作成された幼稚園カリキュラムの実際とその特質を、カリキュラム編成の根本原理に及んで解明した点に、本研究の意義を見出すものである。
7. 幼児教育における「協同的な学び」を推進する教師の援助－幼稚園5歳児クラスの事例にみる－ (査読付論文)	共	2012年03月	『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第29巻 225-238頁 同志社女子大学総合文化研究所	幼児の協同的な学びと育ち、協同的な学びを育む環境構成及び教師の援助について、実践事例に基づいて検討した。幼児の協同的な学びと育ちについて、安心度・夢中度・人のかかわり・イメージの共有・他者と共に遊びの目的創造・他者と共に遊びの目的追求の6つの視点から明らかにした。そこでの環境構成及び教師の援助については、幼児同士で試行錯誤する・考え合う・言葉で伝え合うプロセスの創出という、3つの視点から明らかにした。日本生活科・総合的学習教育学会指定研究(明石市立大観幼稚園) (全23頁、第1章研究の概要、第2章研究の目的、第3章研究の仮説、第4章研究の方法93-97頁、第5章研究の内容2節実践事例2項5歳児の実践事例102-110頁、第6章研究のまとめ111-115頁執筆)
8. 仲間関係を深める戸外遊びにおける環境構成及び教師の援助	単	2008年11月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚園編 8-16頁 (第2章実践事例及びその考察として掲載)	幼稚園5歳児クラスの中で捉えられた幼児の学びをフレーベルとカッツの理論を援用した「学びのマトリックス」によって示し、「協同的な学び」がどのような体験であり、どのような幼児の学びによって構成されているか、解明した。協同な学びを育むに基盤には、幼児自身で探求し、創意工夫しながら遊びの目的を実現していくこと、忍耐強く試すこと、課題を認識し、乗り越えようとする事等、カッツの示す学びの範疇の一つ「性向」を育んでいくプロセスが重要であるとした。また、そうした幼児の自発性を尊重した保育の前提には、周到に準備された教師の働き掛けがあることを明示した。 共著者：埋橋玲子、小尾麻希子
9. 幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－	共	2008年11月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第18集 兵庫教育大学附属幼稚園編 分担執筆1-8頁、8-16頁、48-52頁執筆	幼稚園3・4・5歳児クラスにおける戸外遊びの実践事例を分析した。幼児の仲間関係が深まる過程における環境構成と教師の援助について、幼児が「自分の居場所や基地をもって遊ぶ」「自然を肌で感じながら遊ぶ」「五感を通して感じ、気付いて遊ぶ」「開放感を味わって遊ぶ」「なりきって遊ぶ」「全身を使ったルールのある遊び」「遊具や用具を使った集団遊び」の7つの視点から明らかにした。
10. 幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－	共	2008年03月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集 I 兵庫教育大学附属幼稚園編 分担執筆13-18頁、19-21頁執筆	「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」をテーマとし、幼児の個の充実、仲間関係の深まり、その環境構成や教師の援助の在り方について実践事例を示しながら考察した。研究の概要1-8頁、3歳児の実践事例及び考察8-16頁、研究の成果と課題48-52頁を執筆し、各学年の幼児の発達に応じた環境構成及び教師の援助の在り方について示した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、小尾麻希子他4名
11. 「好きな遊び」の環境構成と教師の援助の変化を読み取る視点	単	2008年03月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集 II 兵庫教育大学附属幼稚園編 69-77頁 (第3章研	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育について述べた。めざす子ども像を、豊かに「かかわり」「気付き」「表現する」子どもとし、幼小交流実践における子どもの学びについて実践事例を通して示し、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。第2章研究の成果及び今後の展望、第3節5歳児と1年生との交流実践13-18頁、第4節交流実践の展望19-21頁を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、小尾麻希子他4名

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
12. 一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考えるー「うれしのタイム」の環境構成及び教師の援助の変化を読み取ることを通してー	共	2008年03月	究のまとめとして掲載) 『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅱ 兵庫教育大学附属幼稚園編 分担執筆32-35頁、41-55頁、69-77頁、81頁執筆	材観・指導観を幼児の姿に即応して変容させる」の3つから示した。 各学年の幼児が味わう充実感及び充実感に繋がる過程について、実践事例を示しながら考察した。「充実感を捉える視点」は、本園の教育課程に示された幼児の発達に即応してまとめ、一覧表に示した。また、「充実感に繋がる過程」に関わる教師の役割を、幼児が「出会う」環境の創造、環境の再構成、教師の幼児観・教材観・指導感の変容という3つの視点から考察した。 第1章研究の概要32-35頁、第2章2節4歳児の保育実践より41-55頁、第3章研究のまとめ69-77頁、第4章研究の成果と課題81頁、研究の概要32-35頁、4歳児の実践事例、研究のまとめ69-77頁、研究の成果と課題81頁を執筆した。 共著者：名須川知子、高橋一枝、小尾麻希子他4名
13. 幼小連携教育の展望ー交流実践・教師の連携・カリキュラムの接続ー	単	2008年03月	『兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要』第17集Ⅰ 兵庫教育大学附属幼稚園編 19-21頁（第2章研究の成果及び今後の展望として掲載）	兵庫教育大学附属幼稚園と同附属小学校間で研究、実践を行った幼小連携教育に基づき、幼小連携教育の展望及び幼小連携教育を視野に入れた附属幼稚園のカリキュラムの再編成について考察した。幼小連携教育の展望を、教師の連携、交流実践、カリキュラムの接続の3点から論じた。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 継続的な保育観察に基づいた学生の学びと学びの可能性ー「協同的な遊び」に対する捉え方の変容を中心にー	単	2018年11月18日	関西教育学会第70回大会（於：関西福祉科学大学） 関西教育学会第70回大会発表要旨集録61頁	教育学科3年生を対象とした授業「教育演習」における実践研究である。保育実践を観察し、記録・討議・考察するという一連の学習活動を通して、受講生がいかに保育に対する理解を深めていくのか、「協同的な遊び」に対する捉え方の変容に焦点を当てて考察した。(1)「協同的な遊び」が創出される前提となる幼児同士の共通の体験や感動体験、(2)そこでの保育のねらいや教師の願い、(3)幼児同士の応答的な関わりや対話、教師と幼児との対話、教師と幼児で共に遊びの環境を創り出していく様相への気付きなど、遊びの創出に至るまでの幼児の経験や複雑な保育の様相を可視化させ得る授業の有効性を示した。
2. 保育における施設設備のもつ可能性を切り拓いた「全国モデル幼稚園協議会」会員校の研究活動とその実践ー1953年から1954年にかけての研究資料の検討ー	単	2018年11月17日	中国四国教育学会第70回大会（於：島根大学） 当日配布資料は、「教育学研究紀要第64巻論文」としてまとめ直し投稿した。	1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けた「全国モデル幼稚園協議会」会員校における研究活動及びその実践の特徴について、1953年から1954年にかけて作成された会員校の研究資料に基づいて検討した。その研究の特徴として挙げられたのは、(1)保育室のコーナーを活用したごっこ遊びの場についての研究、(2)保育室と廊下、廊下とテラスの間を開放したオープンスペースとそこで創造される幼児の遊びに関する研究の2つの側面であった。実践化にあたっては、まず、机が配置された従来の保育室から、幼児自らが物的環境を構成し、幼児同士で豊かな遊びを創造していくような「場」へと保育室を変容させた。幼児自らが環境の構成者となり、そこで繰り広げられる創造的な遊びに価値を置いた実践へと移り変わっていく軌跡を明らかにした。
3. 戦後日本の幼稚園において受容された保育における生活の概念ー東京都公立幼稚園の実践を手がかりにー	単	2018年05月12日	日本保育学会第71回大会（於：宮城学院女子大学） 日本保育学会第71回大会発表要旨集録278頁	戦後日本の幼稚園において作成されたカリキュラムの特徴を捉える手がかりとして、東京都公立幼稚園の研究の動向やカリキュラムなどの実践的資料に表された「生活」の概念について検討した。その結果、(1)保育内容は幼児を取り巻く郷土や家庭生活から取り上げること、(2)生活の記録は幼児一人一人の興味や関心、理解、表現等の観点から示すこと、(3)幼児一人一人の「個」が生きる保育形態については「分園保育」の側面から検討していくこと、これら3つの側面から、幼児の「生活」に立脚したカリキュラムの作成に着手されたことが明らかとなった。
4. 保育内容「環境」を核とした幼児教育指導計画の作成及び模擬保育の効果ー教育学科3年生の授業「幼児教育実践演習」の試みー	単	2018年03月04日	日本保育者養成教育学会第2回研究大会（於：共立女子大学） 日本保育者養成教育学会第2回研究大会発表要旨集録78頁	こま遊びやお正月をトピックとしたごっこ遊びなど、保育内容「環境」を核とした指導計画の作成及び模擬保育の効果について、学生による振り返りと討議に基づいて明らかにすることを目的とした。本授業の特徴は、長期の指導計画に掲げた「ねらい及び内容」を日の指導計画へと具体化する過程を位置づけた点にある。その結果、指導計画作成の意義として、(1)日の指導計画へと位置づけられる幼児の経験内容や活動を連続的な「幼児の生活」を踏まえて考えた点、(2)幼児自身で学びを深いものとしていく視点から立案、(3)幼児の活動の根本にある保育のねら

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
5. 戦後教育改革期における「全国モデル幼稚園協議会」の結成と初期の活動	単	2017年11月25日	中国四国教育学会第69回大会（於：広島女学院大学） 当日配布資料は、「教育学研究紀要第63巻論文」としてまとめ直し投稿した。	いに遡って立案したことの3点が挙げられた。模擬保育の効果としては、(1)保育の意図の明確化、(2)保育の意図と幼児の実態（学生の状況）を重ね合わせながら実践することへの気づきの2点が挙げられた。 1952年の「文部省建築モデル幼稚園」制度を受けた「全国モデル幼稚園協議会」結成の背景及びその結成当初の活動について明らかにしていくことを目的とした。同協議会会員校における結成当初の研究活動には、(1)幼児の生活する「場」として、施設・設備のありようを検討していくこととするもの、(2)幼児と教師で共に遊びや生活を創造していくような環境のありようについて考究されたものがあり、「環境」という視点から保育内容の充実を図っていくこととする研究の萌芽が明らかとなった。
6. 保育の連続性を踏まえた「幼児教育指導計画」の作成過程とその指導方法－教育学科3年生の授業実践－	単	2017年11月1日	関西教育学会第69回大会（於：大阪市立大学） 関西教育学会第69回大会発表要旨集録65頁	教育学科3年生を対象とした授業における指導計画の作成過程を事例とし、「幼児教育指導計画」作成に係る効果的な学習過程とその指導方法について検討していくことを目的とした。有効な指導方法として明らかとなったのは、(1)指導計画立案に至るまでの幼児の生活を踏まえて、幼児の経験やそれに対応した援助の方向性などについて予測する学習過程の構築、(2)幼児一人一人の「志向性」に応えるという側面から、環境構成（教材を含む）や援助について考究していく学習過程の構築、(3)保育の意図と幼児の実態とを重ね合わせながら活動や援助の方向性を見出せる学習過程の構築の3点である。
7. 戦後日本の師範学校附属幼稚園において推進された新しい保育の特質－保育計画論に焦点を当てて－	単	2017年06月24日	日本カリキュラム学会第28回大会（於：岡山大学） 日本カリキュラム学会第28回大会発表要旨集録67-68頁	1947年から1949年にかけて作成された、千葉大学千葉師範学校附属幼稚園及び徳島大学徳島師範学校附属幼稚園の実践的資料に基づいて検討した。それら資料の中に示された保育計画論において、「環境」という視座から戦後保育の方向性が説かれていることを明らかにした。
8. 千葉大学教育学部附属幼稚園における保育計画論の特質－「保育要領」刊行後の幼稚園資料に基づいて－	単	2017年05月20日	日本保育学会第70回大会（於：川崎医療福祉大学） 日本保育学会第70回大会発表要旨集録261頁	千葉大学教育学部附属幼稚園において作成された昭和25年度・26年度の幼稚園資料に基づき、同園保育計画論の特質を明らかにすることを目的とした。25年度の「保育案」では、題目（題材）の選択に主眼が置かれた。26年度の「指導案」では、幼児の発達（主として社会性・ことば）に主眼を置いた目標の具体化が図られた。筆者のこれまでの研究上に提示した昭和22年度の同園「新保育」の趣旨、すなわち、環境による教育の趣旨を継承しつつ、教材観の明示及び目標の構造化を図った点に、その時代的特質を見出すものである。
9. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における「生活保育」の実践化とその再考－「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布まで－ Realization and Reconsideration of “Life-Centered Child Education” at the Kindergarten Attached to the Tokushima University Faculty of Arts and Sciences—Focusing on the period between the publication of “HOIKU-YORYO” (The Guidelines of Kindergarten Education:1948) and the official announcement of “Y OCHIEN-KYOIKU-YORYO” (The Course of study for Kindergarten:1956)－	単	2016年09月18日	国際幼児教育学会第37回大会（於：宇都宮大学） International Association of Early Childhood Education 37th Annual Convention Program, 55-56, 2016.	From the findings of the research, functions promoting growth and development specific to five-year-olds were selected and summarized in the “Ability Table of 5-Year-Olds” (1954). The Ability Table is an important index that identifies how experiences leading to various selected abilities were integrated into the natural life of a child (teaching unit). On examining the child education plan that touches upon the unit titled “YOCHIEN-NO ATARASHII O-UCHI,” which was published in 1954, it was discovered that teaching units closely linked to children’s living environment and hobbies had been selected, and that using an index referred to as the Ability Table, experiential content desirable for children’s learning at the kindergarten level was selected and used for developing the teaching unit.
10. 徳島大学学芸学部附属幼稚園における教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点－「保育要領」（1948）から「幼稚園教育要領」（1956）公布までを対象に－	単	2016年07月02日	日本カリキュラム学会第27回大会（於：香川大学） 日本カリキュラム学会第27回大会発表要旨集録51 - 52頁	「保育要領」（1948）刊行から「幼稚園教育要領」（1956）公布に至る期間を対象とし、同園のカリキュラム及び保育計画にみる教育内容・教育方法の検討過程とその着眼点について、現在、鳴門教育大学附属幼稚園に所蔵されている当時の研究・実践資料を用いて分析した。自然な幼児の生活（単元）の中に、いかに種々の能力につながる経験が組み込まれているのか、それを読み取る指標として「5才児の能力表」が開発され、能力という概念に着目して、教育内容が検討された点を明らかにした。幼児を取り巻く生活環境と彼らの興味・関心が交差するところに選択された単元「幼稚園の新しいおうち」（1954）の保育計画を検討し、幼児の自己活動としての遊びが、種々の能力につながるような経験として位置づけられていく過程を明らかにした。
11. “Starting Strong III” が示唆する幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」の検討－新しい能	単	2015年07月05日	日本カリキュラム学会第26回大会（於：昭和女子大学）	OECDの調査報告書“Starting Strong III”において示唆された幼児教育カリキュラムにおける「学びの領域」と日本の「幼稚園教育要領」に示されている5

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
力観及び「幼稚園教育要領」との比較を通して－			日本カリキュラム学会第26回大会発表要旨集録147-148頁	領域とを比較検討した。前者は、「探究」「遊び」「子どもの相互作用」の3つの側面からカリキュラムに統合される領域が示唆され、探究の領域では身に付けていくことが難しいと捉えられた、いわゆる対人関係のスキルを獲得していく手段として、「遊び」と「子どもの相互作用」を促進する領域横断的な学習を位置づけていることを明らかにした。この点は、豊かな遊びと子どもの相互作用、協同を基盤として、各領域に掲げたねらいを達成していくことを根本に据えた「幼稚園教育要領」とは相違するものであること、さらには、前者が個人の学びをいかに育んでいくのかに焦点を当てているのに対し、後者は個と集団の育ちの関係性を重視した学びに焦点を当てていることを解明した。
12. 倉橋惣三の教育思想と実践とをつなぐ保姆の教育観	単	2015年05月	日本保育学会第68回大会（於：椋山女学園大学） 日本保育学会第68回大会発表抄録集発表ID717	倉橋惣三の保育論を真に解釈し、実践したと評される人物、岡山県師範学校附属幼稚園主任保母岡政の教育観及び明治後期から昭和初期における同附属幼稚園の実践について分析した。岡の教育観は、倉橋の提唱した「誘導保育」論の二つの側面、すなわち幼児の自発性の尊重と目的活動への誘導の両側面に関する知識と理解に基づいて形成されているものであることを明らかにした。
13. 「誘導保育」における生活の系統化と統合化－東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて－	単	2014年11月	日本乳幼児教育学会第24回大会（於：広島大学） 日本乳幼児教育学会第24回大会研究発表論文集108-109頁	東京女子高等師範学校附属幼稚園保母徳久孝子による誘導保育の記録「わたくし達の自動車」(1932)及び自由遊びの記録「五月の一週間」所収「山の組」(1932)を検討した。徳久の記録した前掲2編の実践記録をつないで読み取り、自由遊びと学級の活動の循環の中で、幼児の遊び(生活)が創り出されていく様子を明らかにした。幼児の生活に系統性が生まれ、生活が統合されていくという倉橋惣三の提唱した誘導保育の趣旨と合致する点を指摘した。
14. 幼児の活動における認知・情意・表現の系統性－東京女高師附属幼稚園「保姆の記録」に基づいて－ A System of Cognition, Emotions, and Expressions in Children's Activities—Based on the “Records of a Kindergarten Teacher” from the Kindergarten attached to Tokyo Women's Higher Normal School—	単	2014年09月	国際幼児教育学会第35回大会（於：一般財団法人人材開発センター富士研修所） International Association of Early Childhood Education 35th Annual Convention Program, 76-77, 2014.	Our Limited Express Train, “The Rabbit” (1932) —a record of child care and education produced by Tsuyuko Murakami, a kindergarten teacher from the Kindergarten attached to Tokyo Women's Higher Normal School. It was found that a sense of structure was formed from the children's strong emotional attachment to trains, as well as from an awareness of the fundamentals of life, which, in turn, generated social awareness. It appears that the train as a “main subject” became the center of the children's lives, and the process that was expressed through their voluntary play was a “system of living”. Therefore, through the mutual relationship between the children and their social awareness, an “integration of living” was generated.
15. 仲間との「つながり」を育む保育プロセス—ごっこ遊びの生成プロセスを通して－	単	2014年05月	日本保育学会第67回大会（於：大阪総合保育大学） 日本保育学会第67回大会発表要旨集198頁	幼稚園4歳児クラスにおける幼児のごっこ遊びの生成プロセスを分析することから、幼児が仲間とつながる要因と保育プロセスについて考察した。仲間とつながる要因として、「保育者」「イメージ」「言葉」「動き」があげられることを実践記録より分析し、特に、保育者は「動き」を伴った幼児の表現に着目し、幼児同士をつなぐ役割を担っていることを明らかにした。
16. 協同的な学びを育む保育プロセスⅡ—カッツの理論を援用して－	単	2013年05月	日本保育学会第66回大会（於：中村学園大学） 日本保育学会第66回大会発表要旨集190頁	先行研究で得られたデータに加え、より長期にわたって保育記録を収集し、幼児の協同的な学びの質的变化を捉えた。協同的な学びの質的变化は、共有する遊びの目的が創り出される、目的達成に向かった知識や技能を伝え合う、遊びのイメージや遊び方を共有する、課題を共有する、課題を解決するプロセス変化として捉えられることを明らかにした。
17. 協同的な学びを育む保育プロセスに関する考察—カッツの理論を援用した保育記録の分析を通して－	単	2012年12月	日本乳幼児教育学会第22回大会（於：武庫川女子大学） 日本乳幼児教育学会第22回大会研究発表論文集204-205頁	幼稚園5歳児クラスの幼児の遊びに着目し、遊びの中で捉えられた幼児の学びをカッツの示す4つの学びの範疇「知識」「技能」「感情」「性向」から分析し、それらの学びがどのような幼児の協同する姿、協同的な学びと繋がっていくのか、また、教師の環境構成、援助とどのように繋がっているのかを探った。協同的な学びを育む保育プロセスには、「感情」に下支えされた「知識」「技能」の習得、「性向」の高まり等、幼児の学びの様相に応じた教師の働き掛けが重要であること、また、幼児が他者の学びについて知ったり、関係をつくったりする体験の場が重要であることを明らかにした。
18. 保育の質の向上—「風通しを良くする」観点から—保育現場のクリティカル・シンキング（批判的思考）—	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会自主シンポジウム（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集140頁	実践現場において、保育の質の向上を図るには、研修や保育評価の場を園の内部に留めるのではなく、何らかの方法で外部との交流をもつことの重要性について提案した。教師間で共有できる「評価の規準」として、後掲の「チェック・システム1・2・3」を

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
19. 保育者の職能向上に繋がる研修Ⅰー実践知の可視化を求めてー	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集752頁	の活用し、子どもの育ちや課題、それらに応じた保育構築について考え合う研修の重要性について発表した。 共同研究者：埋橋玲子、小尾麻希子、武藤朱美、山本真理子 保育者の職能向上に繋がる自主研修会を求め、自主研究会で実践を語り合うこと及びデュエイの教育理論を援用しなら考察することを試みた。筆者は、デュエイの述べる「子どもの中にある衝動」に着目し、衝動的表現を意図的表現に高めていく保育の試みについて自主研修会で語り、研修を進めた経緯について発表した。 共同研究者：多田琴子、小尾麻希子、小林みどり、坂根早織、大西雅裕
20. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅢーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー	共	2012年05月	日本保育学会第65回大会（於：東京家政大学） 日本保育学会第65回大会発表要旨集184頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」「教師の関わりに関するチェック・システム」に加え、幼児の姿を12の視点から分析した「集団の育ちに関するチェック・システム」を開発した。その結果、これら3つのチェック・システムを活用することにより、「子どもの遊びを見る視点の明確化ー保育を構築する視点の明確化ー集団の育ちによって転換していく保育のねらい」というサイクルの中で教師の具体的な指導計画作成及び働き掛けが生み出されることを明らかにした。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
21. 園内研修または自己評価のオリジナルリティを求めて	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会ラウンド・テーブル（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集40-41頁	保育の質の向上に繋がるオリジナルな園内研修や自己評価について協議した。筆者は、保育現場において継続しやすい保育評価として、前掲の「チェック・システム1・2・3」を活用した自園の取組を紹介した。 共同発表者：埋橋玲子、小尾麻希子、安達譲、島村和宏、丸山和彦
22. 協同的な学びを育む保育の試みⅠー5歳児の遊びを通してー	共	2011年12月	日本乳幼児教育学会第21回大会（於：東京成徳大学） 日本乳幼児教育学会第21回大会研究発表論文集144-145頁	幼稚園5歳児の遊びを観察し、実践記録を分析し、協同的な学びを育む保育プロセスについて「幼児同士で遊びを創り出すプロセス」「環境が創造されるプロセス」「教師の働き掛けが行われるプロセス」の3点から考察した。その結果、幼児の姿、教師の環境構成、援助は「遊びが始まる時」「遊びが展開していく時」「遊びが変化していく時」「変化した遊びを継続していく時」といった4つのプロセスに応じて変化していることを見出し、幼児の遊びの中の学びに応じて、保育のねらい、環境構成、援助を転換していく教師の専門的な役割について言及した。 共同研究者：小尾麻希子、多田琴子
23. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みⅡーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー	共	2011年05月	日本保育学会第64回大会（於：玉川大学） 日本保育学会第64回大会発表要旨集13頁	先行研究で用いた「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」に加え、教師の関わりを37の視点から分析した「教師の関わりに関するチェック・システム」を開発した。これら2つのチェック・システムを活用することにより、保育の方向性や意図が整理され、子どもの育ちに応じた教師の関わりについて見直す視点が得られたことに言及した。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
24. 子どもの育ちがみえる保育評価の試みーごっこ遊びへの参画スタイルの変容に着目してー	共	2010年05月	日本保育学会第63回大会（於：松山東雲女子大学） 日本保育学会第63回大会発表要旨集64頁	幼児のごっこ遊びへの参画スタイルに着目し、保育実践を保育の「構造評価」「プロセス評価」「アウトカム評価」の3つの保育評価方法を用いて分析した。プロセス評価で用いる「子どものごっこ遊びへの参画スタイルに関するチェック・システム」を創出し、幼児の姿を16の視点から分析した。オリジナルのチェック・システムを活用して評価することにより、子どもの育つ方向が見えやすくなり、子ども一人一人に必要な教師の関わりについて考える視点が構築されると結論づけた。 共同研究者：小尾麻希子、埋橋玲子
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 養成校の授業のあり方におけるアクティブ・ラーニングを考える	共	2019年03月	保育教諭養成課程研究会 保育教諭養成課程研究会研究紀要	平成30年度保育教諭養成課程研究会「授業方法・授業展開部会」報告書 後田紀子（代表者）、入江良英、小尾麻希子、桐川敦子、佐藤有香、深家智子、目良秋子、若尾良徳、若山育代（五十音順）
2. 武庫川女子大学附属幼稚園研究紀	共	2018年03月	武庫川女子大学附属幼	武庫川女子大学附属幼稚園教員と筆者との共同研究

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
要第1集「平成30年度 教育課程・指導計画」			稚園 武庫川女子大学附属幼稚園研究紀要第1集	において作成した教育課程・指導計画集。平成29年3月告示「幼稚園教育要領」の趣旨を踏まえ、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」の観点から「ねらい及び内容」等を示した。(A3版 全25頁) 執筆：大江嘉津子、廣崎有美、塩井敬子、荒牧幸子、隈部磨利依、若山飛鳥、西森遙、小尾麻希子
3. 研究発表『継続的幼稚園観察に基づく実践研究の試み(2)－保育実践「にんじやのもりであそぼう」における学びの過程と保育者の役割－』	共	2018年02月23日	武庫川女子大学教育研究会 第35回研究発表会発表要旨集17-18頁	「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生10名による研究の成果を、平成29年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表した(ゼミ生による発表)。保育実践「にんじやのもりであそぼう」への参与観察を通して、幼児同士で織り成す学びの過程及びそこでの保育者の役割について明らかにした。複雑な様相を織りなす学びの過程を、「遊びの創出」「遊びへの没頭」「遊びの振り返り」の3つの視点から整理して明示した点に特徴をもつ研究である。
4. 研究発表『継続的幼稚園観察から捉えた「協同的な学び」を育む保育の構造』	共	2017年02月24日	武庫川女子大学教育研究会 第34回研究発表会発表要旨集15-16頁	「教育演習」に所属する教育学科3年生ゼミ生11名による研究の成果を、平成28年度武庫川女子大学教育研究会研究発表会において発表した(ゼミ生による発表)。市立幼稚園における継続的な保育観察に基づいて、幼児同士の「協同的な学び」が育まれる過程を明らかにした研究である。また、複雑な様相を織りなすその保育の構造を、「保育構造図」に表して提示した。
5. 5歳児保育実践事例集Ⅱ	単	2012年03月	平成24年度明石市立大観幼稚園研究紀要	平成24年度明石市立大観幼稚園5歳児学級担任時における1年間にわたる保育実践記録をまとめたものである。集団的な運動遊びや協同的なごっこ遊びの過程における、伝え合う、考え合う対話的保育の道筋と幼児の育ちに焦点を当てて記録した事例集である。(全54頁、「5歳児保育実践事例集Ⅱ」25-54頁執筆)
6. 5歳児保育実践事例集Ⅰ	単	2011年03月	平成23年度明石市立大観幼稚園研究紀要	平成23年度明石市立大観幼稚園5歳児学級担任時における1年間にわたる保育実践記録をまとめたものである。集団的な運動遊びや協同的なごっこ遊びの過程における、伝え合う、考え合う対話的保育の道筋と幼児の育ちに焦点を当てて記録した事例集である。(全54頁、「5歳児保育実践事例集Ⅰ」25-54頁執筆)
7. 文部科学省研究開発実施報告書「親育てプログラムとその評価システムの開発による幼稚園の教育課程及び地域子育てに関する開発研究」	共	2007年03月	文部科学省 兵庫教育大学附属幼稚園 文部科学省研究開発実施報告書	文部科学省研究開発指定校として、幼稚園における「親育てプログラムとその評価システム」を開発した。同プログラムを保護者の保育参加、子育て講演会、子育て相談の3つの柱から構成し、保護者の子育て意識の変容を捉える視点から、評価システムを開発した。(兵庫教育大学附属幼稚園) 共同研究者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、小尾麻希子、白石肇、宮脇由美、兵庫教育大学教員5名、子育て支援プロジェクト研究会より4名 (全81頁、第2章研究開発の内容第1節「親育てプログラム」の開発・試行、第2節研究の結果14-40頁、第3章今後の研究開発の課題41頁執筆)
8. 平成18年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」(再掲)	共	2007年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。3歳児の年間指導計画、月別指導計画(4月～3月)、週指導計画例各1編を執筆した。 執筆：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、岸本美保子、小林みどり、小尾麻希子、白石肇 (全52頁、第1章9節年間指導計画(3歳児)6-7頁、第2章指導計画第1節月別指導計画(3歳児)12-22頁、2節週指導計画(3歳児)44頁執筆)
9. 兵庫教育大学教材文化資料館「3歳児保育指導案」(再掲)	単	2007年03月	兵庫教育大学教材文化資料館所蔵	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園3歳児学級担任時に作成・実践した指導案2編を兵庫教育大学教材文化資料館にて所蔵・公開している。
10. 研究報告書・指導案集「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」	共	2006年11月	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、3歳児11月の指導計画、11月第2週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを「幼児の生活を充実させる保育環境を考える－仲間関係を深める戸外遊びに焦点を当てて－」として進めたその研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第18集」を参照。 平成18年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著 (全48頁、研究経過報告4-22頁、3歳児11月指導計画24頁、3歳児もも組11月第2週指導計画28頁、公開保育指導案29-31頁執筆)
11. 平成17年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」(再掲)	共	2006年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
12. 研究報告書・指導案集『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』	共	2006年01月	平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	4歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。 執筆者：名須川知子、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、小尾麻希子、山田有紀子、白石肇（全52頁、第1章9節年間指導計画（4歳児）8-9頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（4歳児）23-33頁、2節週指導計画（4歳児）45頁執筆） 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、4歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを『一人一人の幼児が友達と共に「充実感」を味わって遊ぶための保育環境を考える』として進めたその研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅱ」を参照。 平成17年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全42頁、研究経過報告4-16頁、4歳児1月指導計画31頁、4歳児ひまわり組1月第3週指導計画33頁、公開保育指導案34-36頁執筆）
13. フィンランド・スウェーデンの教育の実情	共	2005年12月	文部科学省 国立大学法人附属学校 国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修報告書	海外派遣研修によって学んだフィンランド・スウェーデンの就学前教育、初・中・高等教育、特別支援教育の実情及び日本における教育の展望について報告した。研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」「フィンランドの就学前教育」、調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と日本における就学前教育の在り方に関する考察」を執筆した。 （全60頁 第2章研修視察報告「フィンランドの学童クラブ」13頁、「フィンランドの就学前教育」18頁、第3章調査研究課題成果報告「フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察」44-48頁執筆）
14. フィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情と就学前教育の在り方に関する考察	単	2005年12月	文部科学省 国立大学法人附属学校 国際的な視野・識見を有する中核的教員を育成するための海外派遣研修報告書44-48頁	海外派遣研修によって捉えたフィンランド・スウェーデンの就学前教育の実情から、日本の就学前教育の展望について考察した。幼児期から児童期にかけての教育において重要なことは、遊びを通して学ぶ体験的な学習の中で、五感を通して「感じる力」「表現する力」、物事を「探求する力」「考える力」「他者とコミュニケーションを図る力」「伝える力」等を培う体験や経験である点に論及した。
15. 平成16年度版「3歳児から5歳児の教育課程・指導計画」（再掲）	共	2005年03月	兵庫教育大学附属幼稚園	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園における3歳児から5歳児の教育課程・指導計画を全52頁に著している。 5歳児の年間指導計画、月別指導計画（4月～3月）、週指導計画例1編を執筆した。 執筆者：岡秀郎、高橋一枝、谷石宏子、上月康代、岸本美保子、小尾麻希子、前田真由美（全52頁、第1章9節年間指導計画（5歳児）10-11頁、第2章指導計画第1節月別指導計画（5歳児）34-44頁、2節週指導計画（5歳児）46頁執筆）
16. 研究報告書・指導案集『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』	共	2005年01月	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会研究報告書・指導案集 兵庫教育大学附属幼稚園	平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園研究発表会において行われた研究経過報告及び公開保育指導案を掲載したものである。研究経過報告書、5歳児1月の指導計画、1月第3週指導計画、公開保育指導案を執筆した。 研究テーマを『幼小連携教育－豊かに「かかわり」「気付き」「表現」する子ども－』として進めたその研究と実践の詳細は、前掲の「兵庫教育大学附属幼稚園研究紀要第17集Ⅰ」参照。 平成16年度兵庫教育大学附属幼稚園教員による共著（全46頁、研究経過報告4-20頁、5歳児1月指導計画41頁、5歳児すみれ組1月第3週指導計画43頁、公開保育指導案44-46頁執筆）
17. 平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会研究報告書「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるための物的・空間的環境の構成」	単	2004年11月	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会「教育課程協議会研究成果の要旨集」	平成16年度文部科学省「幼稚園教育課程協議会」中央協議会における発表の要旨を掲載したものである。協議主題C「感じたこと、考えたことを音や動きで表現したり、自由にかいたりつくったりするようになるためには、どのような物的・空間的環境の構成が必要か」について、幼小連携教育で進めている実践事例に基づいて発表した。物的環境の構成について、かく場所の魅力、開放感を味わってかくこと、かいたものを使って遊ぶ楽しさ、かく場所に適した材料、人とのかかわりによって豊かになるイメージと心の揺れ動きの観点から示した。（124-125頁執筆）
6. 研究費の取得状況				
学会及び社会における活動等				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年09月～現在	日本保育者養成教育学会
2. 2017年07月～現在	一般社団法人 保育教諭養成課程研究会（授業方法・授業展開部会）
3. 2017年04月～現在	中国四国教育学会
4. 2016年01月～現在	幼児教育史学会
5. 2015年01月～現在	日本カリキュラム学会
6. 2014年04月～現在	国際幼児教育学会
7. 2012年04月～現在	関西教育学会
8. 2010年04月～現在	日本乳幼児教育学会
9. 2000年04月～現在	日本保育学会